

## 平成21年度 喜入ブロック小・中学校連携研修会 研究協議内容

### <小学校と中学校の共通課題>

- 1 確かな学力を身に付けさせるためには、どのような取組や連携をすればよいか。
- 2 中学校での不登校傾向を解消するためには、どのような取組や連携をすればよいか。
- 3 基本的生活習慣を身に付けさせるためには、どのような取組や連携をすればよいか。

### <各小・中学校の取組や連携等>

#### 【1に関して】

- ・ 授業や特設した時間に複数の教師が一人一人の能力に応じた指導をしている。
- ・ 家庭学習、読書指導、音読、朝の活動等で学力の向上を図っている。
- ・ 中学校では、文化祭での発表等で、言語活動の実践に取り組ませている。
- ・ 中学校から小学校の学習内容に質問があり、各小学校が回答した。今後は、相互に学習内容や実態を知らせ合いたい。

#### 【2に関して】

- ・ 不登校への対応として、各校で、毎週、曜日を決めて話し合いの場を設けて、対策を立てている。
- ・ 家庭や地域との連携を深めるために、学校参観の機会を増やし、対策の一つとしている。
- ・ 隣接小学校や中学校での交流学习を実施し、対策の一つとしている小学校もある。
- ・ 今後は、小学校で欠席傾向で気になる児童の情報は報告対象外でも中学校に知らせることとした。

#### 【3に関して】

- ・ あいさつや身だしなみは基本的生活習慣の基本であるので、各校で強調週間を設けたり、徹底事項として取り上げたりしている。
- ・ 喜入ブロックの小・中学校の共通課題として次のことを設定して取り組むこととなった。

あいさつ（自分からのあいさつ、困っている人への声掛け等）をとおして、思いやりの心へとつなげる

#### 【その他】

- ・ 喜入中学校区では毎学期末に生徒指導のための「サポート会議」を実施しているが、二学期以降の会議終了後、出席した学校関係者が集まり、小・中連携のための情報交換会を実施することとした。第1回は12月16日（水）に実施した。

### <研修会のまとめ>

今回（6月23日、前之浜小学校）の研修会では、前之浜小学校の全学級の国語科の授業をブロック内の小・中学校の先生方に参観していただいた。中学校の先生方には、児童の主体性を重視しよう、「書く」ことをとおして「読み」を深めようという授業をとおして、小学校の指導法を理解していただいた。

また、小学校の先生方には、今回の学習指導要領の中心の一つである「言語能力」を培うための実践として意見や感想をいただき、これから連携して児童の指導に当たろうという気運を生み出すことができたと考える。

今後は研修会だけではなく、定期的な情報交換の場を設定して、相互の連携に取り組むこととなったので、中1ギャップの解消など様々な課題に取り組んでいきたい。

## 平成21年度 喜入ブロック小・中連携研修会

### 1 開催日

平成21年6月23日(火)

### 2 日程

14:05 14:15 14:20

15:05 15:20

16:35

16:55

|    |    |           |               |  |              |
|----|----|-----------|---------------|--|--------------|
| 受付 | 移動 | 授業参観(全学級) | 移動<br>・<br>休息 | 分科会1(生徒指導部会)<br>(音楽室)<br>分科会2(学習指導部会)<br>(図書館) | 全体会<br>(音楽室) |
|----|----|-----------|---------------|--|--------------|

### 3 会場校

鹿児島市立前之浜小学校

### 4 参加校

瀬々串小学校 中名小学校 喜入小学校 一倉小学校 前之浜小学校  
生見小学校 喜入中学校

### 5 授業参観(略案授業) 14:20~15:05

|    |    |    |    |    |    |        |
|----|----|----|----|----|----|--------|
| 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | 5年 | 6年 | たんぽぽ学級 |
| 国語 | 国語 | 国語 | 国語 | 国語 | 国語 | 国語     |

### 6 分科会(15:20~16:35)

| 分科会    | 提案校  | 協議題名                            | 司会者              | 指導助言者             |
|--------|------|---------------------------------|------------------|-------------------|
| 生徒指導部会 | 喜入中  | 生徒指導の充実<br>(生徒指導における小・中連携のあり方)  | 川畑悟子教諭<br>(生見小)  | 田中幸太郎校長<br>(生見小)  |
| 学習指導部会 | 前之浜小 | 確かな学力の育成<br>(学力向上における小・中連携のあり方) | 小牟禮久教諭<br>(瀬々串小) | 上赤富士夫校長<br>(瀬々串小) |

#### (1) 生徒指導部会

- ① 生徒指導部会は、中学校が今年の中学校の様子から提案する。
- ② 提案を受けて、質疑応答や協議を行う。
- ③ 各学級の提出資料について、補足説明、意見交換を行う。

#### (2) 学習指導部会

- ① 学習指導部会は、前之浜小学校が自校の現状や課題などから提案する。
- ② 提案を受けて、質疑応答や協議を行う。
- ③ 各学校の提出資料について、補足説明、意見交換を行う。

### 7 全体会(16:35~16:55)

- (1) 分科会報告(生徒指導部会, 学習指導部会)
- (2) 講評及び閉会のあいさつ(前之浜小学校長)

## 平成21年度 喜入ブロック小・中学校連携研修会

平成21年6月23日

分科会（生徒指導部会）記録

協議題名

生徒指導の充実（生徒指導における小・中連携のあり方）

<中学校からの提案>

- 1 毎週金曜日に生徒指導部会を開いているが、時間不足である。→学年部での話し合い。
- 2 （1）不登校生徒前年度よりも増加している。学習支援に十分な取り組みが出来ていない。  
→学習支援のあり方を、小学校と情報交換しながら進めていきたい。  
（2）小中連絡会の際、報告の対象とならない児童（週1日欠席する児童・欠席日数20日前後の児童など）についても、情報交換していきたい。
- 3 家庭訪問がスムーズに実施できない家庭がある。→家庭との連携を深めるため、小学校からの情報を得ながら進めていきたい。

<質疑応答>

- 1 3月の小中連絡会のあり方  
（1）不登校をどう捉えるかということが大切である。→不登校は誰にでも起こりうることであり、不登校児童・生徒がいても恥ずかしいことではない。  
（2）連絡会に限らず、学校間の気軽な情報交換が出来たら情報の共有が図れる。

<各校から>

- 1 いじめ、不登校への対応として、毎週曜日を決めて話し合いの場を設けている。  
→係を中心に情報の共有化を図る。共通理解・共通実践
- 2 家庭や地域との連携を深めるため、地域一体となった登下校指導の実施や家庭教育学級、日曜参観の実施、教育相談の充実を図る。

<課題>

- 1 身だしなみに気を付けさせる。
- 2 時と場に合った言葉遣いを指導する。

<意見交換>

- 1 中1ギャップの解消を図る。→B小では、2学期に中学校にて6年生の体験学習を予定している。  
C小とD小では交流学習を実施している。（友達作りに成果がでている。）

<共通実践事項>

あいさつ（自分からあいさつ、困っている人への声掛け等）を通して、思いやりの心へとつなげていきたい。→サポート会議にて各校の取り組みの進捗状況を共有する。

<指導助言>

- 1 生徒指導とは、一人一人の個性を伸ばし、自己実現を図り、自己指導能力を育てることである。
- 2 児童・生徒の的確な実態を把握する。→職員それぞれの立場から。  
そこで得た情報を共有する。＝問題意識を全職員がもつ。
- 3 共通実践の後には、評価を忘れずに実施したい。
- 4 体験学習が重要である。（外遊びの重視）。
- 5 保護者・関係機関との連携を推進する。→地域ぐるみで取り組みを進める。
- 6 研修等職員の質の向上を図る。→積極的な情報交換を図る。  
交流学習の充実を図る。  
不登校生徒への小中連携を進める。→☆結果を急がないようにする。

## 平成21年度 喜入ブロック小・中学校連携研修会

平成21年6月23日

分科会(学習指導部会)記録

協議題名

確かな学力の育成(学力向上における小・中連携のあり方)

<各学校での取組>

- F小 : 家庭学習時は 学年×20分 で実施している。
- E小 : 専科の先生による個に応じた指導を図る。  
読書指導では、児童による本の選定を行った。→意欲的に読むようになった。
- C小 : 指導法改善教員を加え、個に応じた指導を行う。  
朝の活動で、俳句や視写や算数の問題など、工夫して行っている。
- D小 : 個人カルテを作成し、児童の学力の変容を記録している。  
給食時に音読を発表させている。
- B小 : 毎週月曜日の放課後に1～2年と特別支援学級は担任が、3～6年はTTによる学力向上教室を開き、補充問題やコース別学習を行っている。  
司書補に時間割を渡し、学習に生かせる図書を図書室に展示している。
- 中学校 : 言語活動の授業実践として、社会科でのフィールドワークに出かけ、文化祭等で発表させている。→生徒の意欲が高まった。

<中学校から>

- 1 学習内容について質問があった。
  - ・ 国語科…漢字の筆順指導について 新出漢字を学習する時間はどれくらいあるのか。また、筆順についてはどの程度教えているのだろうか。
  - ・ 社会科…配当時間の割に学習内容が難しく、家庭学習が大切になってくる。
- 2 「学習への意欲があるが、保健室登校の生徒もおり、人間関係づくりがうまくいかず、学力に影響している生徒もいる。」という報告があった。
- 3 次のような要望があった。
  - ・ 小学校との連携をもっと深くして、小学校での実践を中学校にも知らせてほしい。
  - ・ 入学当初にNRTを実施できないため、小学校で実施したCRTのデータを引き継いでもらえないだろうか。

<意見交換>

- 1 宿題は確実に提出させるように指導をする。
- 2 家庭に様々な問題を抱えている子どももおり、学習への意欲が高まらないことがある。

<指導助言>

- 1 基礎基本をしっかりと定着させる。
- 2 めあてとまとめを板書する。
- 3 音読を授業に効果的に取り入れる。
- 4 自己評価をさせ、子どもの意識を高めさせる。
- 5 子どもたちの実態把握のために、小・中学校の職員の信頼関係を築くことが大切である。

# 積極的な生徒指導を展開するための 具体的・実践的な生徒指導はどうすればよいか

喜入地区

## 1 はじめに

喜入地区は、生徒指導上の課題、いじめ・不登校への対応などについて意見交換する中で、今年度も昨年度に引き続き「積極的な生徒指導を展開するための具体的・実践的な生徒指導はどうすればよいか」というテーマを設定し協議を深めてきた。

また、6月に行われた喜入ブロック小・中学校連携研修会の生徒指導分科会の中で、「あいさつ（自分からあいさつ、困っている人への声掛け等）を通して、思いやりの心へとつなげていく」という共通実践事項を決めて取り組んでいる。

そこで、今回は、共通実践事項である「あいさつ」の各学校の取組を中心に、具体的な取組をまとめた。

## 2 具体的な取組

### (1) 共通実践事項「あいさつ」の各学校の取組

#### ○ A校

- ① アンケートを実施し、各々がどのようなことを課題と感じているか、目指す子どもの姿をどのようにとらえているかについて把握し、目指すあいさつ像を右記のように設定し、共通理解のもと、日常生活の中で指導していくことにした。

さわやかなあいさつをしよう

- ・ 進んで
- ・ だれとでも
- ・ 目と目を合わせて

- ② 具体的な実践例

#### ア 環境整備

子どもたちへの「さわやかなあいさつ」の意識の向上を図るために掲示を行い、めあてを持ってあいさつに取り組むことができるようにしている。



#### イ 全校朝会の場で

- ・ あいさつの意義やあいさつの大切さについての講話
- ・ 「さわやかなあいさつ」を実践している児童の紹介と「さわやかなあいさつ」の実践



#### ○ B校

- ① あいさつのよさや大切さを日常的に伝えるとともに、各学期の初めの月の生活目標は「進んで気持ちのよいあいさつをしよう」としてあいさつを意識して取り組んでいる。

- ② 広報委員会と連携しながら毎月1週間あいさつ週間を設けている。玄関に広報委員会が立ち、あいさつをしたり、全校児童に笑顔カードを配布したりしている。「大きな声であいさつしよう」「名前をつ

えがおカード (1月)

あいさつキャンペーン  
大きな声で気持ちよいあいさつをしよう!!

| 日  | 水  | 木  | 金  |
|----|----|----|----|
| 26 | 27 | 28 | 29 |
|    |    |    |    |

◎よくできた○できた  
△あまりできなかった

反省 評価(4-5)

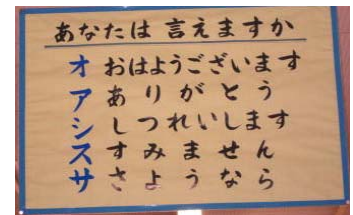
各学年ごとに6年生教員に  
しよカードを  
( )名前( )

けてあいさつしよう」など、めあてを決めて取り組み、あいさつについて自分はどうか振り返るようにしている。また、玄関でのあいさつの様子について広報委員会が反省を行い、昼の放送で良い点や悪い点について放送し、次の日のあいさつの意識を高めるようにしている。

- ③ 朝のあいさつだけでなく、帰りのあいさつの「さようなら」も自分から言えるよう声かけを行っている。

○ C校

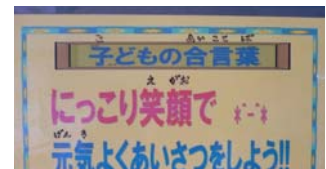
本校では、高学年がよく挨拶をしており、下学年はそれを見て、まねをするというよい習慣ができつつある。しかし、地域の方の学校評価を見ると、最近よくなってきたという意見とできていないという意見に分かれる。地域では個人差があるように思われる。そこで、教務主任の方から、地域での挨拶の大切さについて話をした。係からも、長期休業に入る前に話をしている。不審者対応が言われているが、誰にでも挨拶ができるように指導していきたい。また、学期に1回、あいさつ強調週間を設定し、週の努力点に「オアシスサ運動」を掲げ、指導を強化している。全校朝会を利用して、係から挨拶の大切さについて話をした。今後、児童会とも連携して、「朝のあいさつ運動」を計画していきたい。



○ D校

昨年から引き続き、あいさつについて指導を行っている。昨年度に子どもの合い言葉として、「にっこり笑顔で元気よくあいさつをしよう」を設定した。朝や帰りのあいさつ時や全校朝会・児童朝会の時などに日直が合い言葉を言い、皆であいさつをすることにしている。合い言葉を言うことで、ただ何となくあいさつするのではなく、あいさつするときの顔や声にまで意識がいくようになってきた。

今年度からの取り組みとして、年度初めに児童会からあいさつ運動の提案があり、全校児童が輪番で朝あいさつ運動を行った。校内でのあいさつはよいが校外ではなかなかできないという実態があったので、当番児童が学校脇の道路に立ち、本校児童だけでなく通行する地域の方々にもあいさつすることは良い機会であった。入学したての1年生も上級生とともにあいさつ運動に参加し、元気にあいさつをすることができた。



○ E校

- ① 年間目標として「すすんであいさつをしよう」を掲げ、学校全体であいさつ推進に取り組んでいる。年間目標は、生活目標と合わせて、各教室の前方に掲示して、いつでも確認できるようにしてある。
- ② 毎月1回行われる児童代表委員会の話し合いの中で、生活目標の反省と合わせて、あいさつができたかどうか学年毎に反省を発表している。話し合われた内容は、総務委員会が新聞形式にまとめ印刷し、全学年に配り、翌月への意欲付けを行っている。
- ③ 「おはようございます」「さようなら」以外の取り組みとして、職員室（特別教室）へ入るとき言い方や、職員へ尋ねる（お願いする）時の言い方、来客へのあいさつ、会釈などその場にあった言動がとれるように、発達段階に合わせてその都度指導している。

○ F校

- ① 「あいさつ」「あつまり」「あるきかた」「あとしまつ」については、4つの「あ」運動として、廊下等にも掲示し、年間を通して重点的に取り組んでいる。
- ② 総務委員会が中心となり、朝の「あいさつ運動」を行っている。毎月第1週の1週間、朝（7：30～8：00まで）、当番の学年が校門前に立ち、あいさつをしている。以前より、あいさつに対する子どもたちの意識が高まってきている。



(2) 思いやりの心を育成する取組（6校の取組から）

① 人権週間

- ・ 気になる子どもの把握（アンケートの実施）
- ・ 世界人権宣言や子どもの人権宣言の紹介
- ・ 人権に関する授業の実施
- ・ 人権教室

ビデオを視聴し、その感想をみんなで話し合ったり、人権擁護委員の方のお話を聞いたりする。

- ・ 人権やいじめ防止を呼びかける標語の募集

上の取組を通して、命を大切に、互いに自分を省み、互いに認め合い、支え合えるような学級集団作りに努めている。

② 児童会

児童総会で「言葉遣いについて」を議題とした話し合いの場を設定したり「親切の木」を掲示したりしている。

「親切の木」を掲示することで、相手を思いやる行動についての意識が高まりつつある。



③ みんなで遊ぶ日の設定

週に1回程度、どの学年も「みんなで遊ぶ日」を設定している。遊び係が中心となりみんなの意見を取り入れて遊びを決め、昼休みみんなで遊んでいる。遊びを通して、コミュニケーションや集団のルールなど対人関係の基礎を養うとともに、学級の団結力を高めることにもつながっている。担任や専科の教師も一緒に遊ぶこともある。

④ ボランティア活動の推進

登校後から8時10分までを「心みがきの時間」として設定している。高学年を中心に校庭や校舎内の清掃、飼育当番、花園の手入れなど自分たちにできる活動を行なうように呼びかけている。高学年の姿を見て、中学年・低学年も手伝う姿が見られる。

⑤ 心の教育の充実を図る

- ・ 「朝の読書」や教師や地域の方による「読み聞かせ」を実施し、児童の心の成長を促す。
- ・ 「いじめを考える週間」や「不登校を考える週間」では、道徳の授業で取り組むのはもちろんだが、標語の募集、心がにこにこになる言葉集めなども実施している。週報などでこれらの週間の様子について、保護者に知らせ、各家庭でもいじめや不登校について話し合ってもらうように呼びかけている。
- ・ 年1回は授業参観で「道徳」の授業を実施している。

### 3 成果と課題

各学校で共通理解のもとあいさつに取り組んだ結果、子どもたちは、以前と比べて進んで元気よくあいさつをするようになってきている。また、地域の方からも、あいさつがよくなったという声も聞かれるようになった。

しかし、登下校中はしっかりあいさつができて、休日になるとできていない。今後は、いつでもどこでも人とすれ違ったときには、子どもたちから進んであいさつができるように、指導の仕方を工夫する必要がある。また、朝夕のあいさつだけではなく、様々な場面でのものの言い方、尋ね方、声のかけ方も発達段階に応じて教えていく必要がある。また、思いやりの心に関しても各学校の取組や、保護者との連携を通して、なおいっそう充実させていきたい。

今回、共通実践事項を決め取り組み、情報交換を行う中で、積極的な生徒指導を展開できたと感じた。今後も各小学校や中学校との連携を密にしながら、積極的な生徒指導を推進していきたい。